



OPCAR PRODUCE
オブカルプロデュース

令和6年度企画展・新紙幣発行記念

銭は天下の 回りもの

令和6年

7月9日（火）～9月23日（月）

令和6年

会場／大分県立埋蔵文化財センター企画展示室

観覧無料

百“貨”繚乱！
深淵なる“銭”の世界へ！！

関連行事

※参加無料・事前申込不要です。

●考古学講座

「銭は天下の回りもの」

7月31日（水） 13：30～15：00

大分県立埋蔵文化財センター

3階第2講座室

●企画展ギャラリートーク

7月13日（土）／9月7日（土）

13：30～14：30

主催：大分県立埋蔵文化財センター
後援：大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、
TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送
協力：大分県立歴史博物館、大分市教育委員会、
佐伯市教育委員会、竹田市教育委員会、
中津市教育委員会、豊後大野市教育委員会

時間：9：00～17：00（最終入館は16：30まで）

休館日：月曜日（月曜が休日の場合は翌平日）



大分県立埋蔵文化財センター（OPCAR）
Oita Prefectural Center for Archaeological Research



〒870-0152 大分県大分市牧緑町1-61

TEL 097-552-0077

FAX 097-552-0700

<https://www.pref.oita.jp/site/maizobunka/>



刀銭（方首刀） 大分県立歴史博物館 蔵
杵築市鴨川
中国（周王朝・戦国時代） B.C.5世紀～B.C.3世紀頃



和同開珎
宇佐市・尾畑遺跡
日本 8世紀

令和6年度企画展・新紙幣発行記念

銭は天下の回りもの

令和6年7月の新紙幣発行を記念し、古代～近世にかけて通貨として流通した「銭」をテーマに取り上げます。銭は日本では7世紀後半に鑄造が開始され、10世紀中頃を最後に一度鑄造が途絶えますが、中世には中国から多量の渡来銭がもたらされ、都市を中心に銭貨による経済活動が活発化しました。その後、江戸時代を通じて寛永通寶が鑄造され、貨幣経済が全国に浸透しました。明治4年（1871）の新貨条例制定により、通貨単位として円が採用され、今日に至っています。

銭は物品への支払い対価の他に、埋葬時の六道銭や、地鎮め等の祭祀、信仰に基づく奉賽銭等、生活の中でさまざまな使用されてきました。本展では大分県内から発掘された古代～近代初頭の銭貨を中心に、人々の生活の中で銭が果たした役割と、その背景にある歴史を紹介します。



崇寧重寶（当十銭） ※重要文化財
大分市・中世大友府内町跡
中国（北宋） 12世紀



洪武通寶
大分市・中世大友府内町跡
中国（明） 15世紀



洪順通寶 ※重要文化財
大分市・中世大友府内町跡
ヴェトナム（後黎） 16世紀



表



裏

琉球通寶（当百銭） 佐伯市教育委員会 蔵
佐伯市・佐伯城下町 日本（薩摩藩） 19世紀



銭鑄造関係遺物（銅鑄棒・埴埵・砥石・寛永通寶） 竹田市教育委員会 蔵
竹田市・城下町遺跡（岡藩銭座跡） 日本 17世紀



大分県立埋蔵文化財センター（OPCAR） 豊の国考古館／BVNGO大友資料館／歴史体験学習館

- 休館日 年末年始（12/28～1/4）・月曜日（月曜日が休日と重なる場合は翌平日を休館とする）
- 利用時間 9：00～17：00（入館は16：30まで） ●入館料 無料



〒870-0152 大分県大分市牧緑町1-61

E-mail a31720@pref.oita.lg.jp

<https://www.pref.oita.jp/site/maizoubunka/>

- J.R：日豊本線・牧駅下車、徒歩6分
- バス：大分駅前から大分バス「一里塚」行き14分、「牧」バス停下車、徒歩2分
- 自家用車：大分駅から滝尾橋ルートで約10分